

# 2008 年度大会テーマ投稿論文

## 大会テーマ

### 「福祉人材養成の軌跡と展望－社会福祉学部教育の 50 年－」

## 福祉人材養成と福祉の心

関西福祉大学

谷 川 和 昭

### I 問題の所在

朝日新聞の「職場のホ・ン・ネ」という投書欄が目にとまったのは、ここ最近のことである。投書された内容は、福祉の心について改めて考えさせるきっかけとなった。

社会福祉法人の保育園に勤めています。園長の口癖は「人員は十分足りている」です。けれど、現実には忙しく、書類書きや制作物など、ほとんどが持ち帰り仕事になります。規程の時間に帰ることはあまりありません。

そんな時、園長は「私たちは福祉の世界で働いています。福祉の心が大切」と、明らかにサービス残業を強要します。なんでも「福祉の心」だと言えば罪はないと考えているようで腹立たしく思います。(下線、筆者)

これは岡山県 保育士 40代 女性からのもので『福祉の心』を口実に」という題がつけられていた(朝日新聞朝刊, 2008年3月7日)。

もう1つ、長崎県 社会福祉士 23歳 女性、「福祉の現場に落胆」という見出しのものも紹介しておきたい(朝日新聞朝刊, 2008年4月4日)。

障害者の入所施設に就職して1年。利用者一人ひとりを理解できる職員になりたいと働き始めたのに、今は落胆の日々です。大勢の利用者に対してギリギリの数の職員。利用者主体ではなく職員主体の援助にならざるを得ません。

人間関係のストレスもあり辞めようかとも考えますが、奨学金の返済や再就職を考えると悩みます。福祉の心を持つようにと皆が言っていますが、皆が忘れていると思わずにはいられません。(下線、筆者)

両者の投稿内容に共通するキーワードは社会福祉現場における「福祉の心」ということになる。そして、この言葉が現場においては悪用されていることの虚しさを訴えているのが前者ならば、後者ではこの言葉の適切でない用い方、もっといえば間違った使われ方がなされていることへの疑問を抱き、この言葉が発するほんとうの意味が何かを問うているように解釈できる。

このことから今日の社会福祉現場では「古い」福祉の心ではなく「新しい」福祉の心が必要とされていると考えられる。本稿では、福祉人材養成との関連で求められる、「新しい」福祉の心とは何であるかを検討してみたい。

## Ⅱ 先行業績にみる福祉の心の意味内容

### 1. 筆者のかつての定義

2006年度の卒論ゼミで、筆者は「誰に対しても優しさを配れる強さのこと」であると、臆気ながら福祉の心を捉えていた。その後、いくつかの文献を目の当たりにするようになり、「福祉の心」を次のとおり、定義づけたことがある<sup>1)</sup>。

他者の問題を冷たく他人事として見過ごさないで、自分の問題として捉える態度であり、しかも個人的な心情を抑えて、社会のあらゆる資源を活用しながら、危機状態にある人の人生の再建のために力を貸していこうとする姿勢である。

この定義は、実際のところ、小島蓉子の見解を大いに参考にして筆者なりにまとめたものである。小島は「福祉の心」をもつことは、対人援助に携わる専門職を目指す者にとって、知識・技術を身につける以前の必須条件であると述べていた<sup>2)</sup>。小島の説をもとに作成したこの定義が、果たして「古い」福祉の心なのか、「新しい」福祉の心なのかは定かではないが、これから社会福祉を担う若手、とくに学生らの意見も踏まえて考えることも大切な視点であると思われる。

### 2. 雑誌や著書における扱い

そもそも福祉の心という言葉が使われるようになったのは1970年代以降である。かつて1970年代後半には福祉関係で伝統のある2つの主要雑誌において“特集”もしくは“座談会”が組まれた。1つは『月刊福祉』61(4)(全国社会福祉協議会、1978年4月)である。そこでは「福祉のこころ—その具象とは何か?」(pp.4-10)、「『福祉のこころ』をめぐって」(pp.12-35)という2部構成で大きな特集テーマで取り扱われている。

そして、もう1つが『社会福祉研究』21(鉄道弘済会、1977年10月)である。そこでは「なぜ『福祉の心』が強調されるのか」の座談会が催され、福祉の心の問題を掘り下げている。

ところが、その後、福祉の心を真正面に据えたテーマは見受けられないままである。座談会として「都市と福祉のこころ」『地域福祉研究』15(日本生命済生会、1987年)、あるいは対談として「福祉のこころと日本人の精神文化」『すこーれ』(スコーレ家庭教育振興会、2001年8月号～12月号)などもみられるが、福祉の心とはどういうものであるかが提示されていないので、キャッチコピー的な感じがしないわけではない。

これは著書においても同様である。「福祉の心」や「福祉のこころ」を冠する図書は少なくないものの、それがどういうものであるのかを論じた学術専門書がなく、所謂、一般教養的な啓蒙書がほとんどである<sup>3)</sup>。福祉の心とは何であるかが不明瞭であり、学問的には未確立といえよう。

### 3. 辞典での記載内容

では、辞典はどうか。辞典に書かれた「福祉の心」の定義に目を向けてみると、それが学問研究の対象として本格的になされてこなかったためか、「福祉の心」を記載した辞典(事典、用語集を含む)は思いの外少ないことがわかった。なかでも意外に感じたのは、日本のソーシャルワーク百科事典とも目されている『エンサイクロペディア社会福祉学』(中央法規出版、2006年)あるいは日本地域福祉学会編集の『地域福祉事典』(中央法規出版、1997年初版、2006年新版)には記載があつてよさそうであるが、見当たらなかった。この言葉がよほど学者研究者によって軽視されてきたきらいがあるように思えてならない。

しかしながら、記載のあることが確かめられた辞典も僅かながら存在する。筆者が確認できたのは、今のところ『国民福祉辞典』(金芳堂、2003年)、『社会福祉学小辞典』(ミネルヴァ書房、2000年)、『現代福祉学レキシコン』(雄山閣出版、1993年)の3冊である。では、いったいどのように定義されているか確かめておこう。

まず、『国民福祉辞典』では、阪野 貢が「個人の尊厳と人権の尊重を前提にした思いやり、優しさ、いたわり等の豊かな人間性のもとに培われた福祉

意識」というように表現していた<sup>4)</sup>。

次に『社会福祉学小辞典』では、京極高宣が「社会的条件に恵まれない人々（クライアント）やその周辺の人々と人格的にふれあい、思いやりの態度をもってそれらの人々と共に生きようという社会連帯の意志と情念をいう」としていた<sup>5)</sup>。

そして『現代福祉学レキシコン』は、阿部志郎が「社会的条件に恵まれないマイノリティの人々と、人格的にふれあい、自己も他者も、すなわち、相互に変革される温かい人間的態度と、福祉問題を生み出す社会に本質を問い、福祉社会を創造していく共同の社会的努力を育てる豊かな人間の意志と情念を指している」とまとめている<sup>6)</sup>。

以上であるが、阪野は「豊かな人間性」を、京極は「社会連帯」を、阿部は「福祉社会の創造」をあげている点が特長であると考えられる。

#### 4. 福祉の心の意味と使われ方

「福祉の心」の定義を確認したが、これらはかつて阿部が福祉の心の意味と使われ方を9つに分けて見解を示していたところにそのルーツを求めることができると思われる<sup>7)</sup>。それは次のように箇条書きに整理できる<sup>8)</sup>。

- ①制度を支えるべき市民に福祉意識が育つこと
- ②行政責任が後退することに対する批判
- ③物で覆うことができない人間の心の面
- ④伝統的ボランティア活動の根源としてのボランティアズム
- ⑤新しい責任主体による福祉へのかかわり姿勢
- ⑥地域を基盤とした福祉の再編成
- ⑦人間の善意、思いやりを掘り起こすこと
- ⑧福祉従事者としての自己の人格確立に向けた態度
- ⑨互いの福祉の探究により構築する福祉哲学

①から⑨までのうち、「福祉の心」のコア（核）といってよいのはどれか。それは見る人によって異なり、1つだけでは物足りないかもしれない。そして、どれが時代遅れで、どれを現在でもなお継

承すべきかが問われているともいえる。

### Ⅲ 筆者調査にみる福祉の心が指し示すもの

#### 1. 因子分析結果

##### 1) 対象者のプロフィール

筆者は、明日の社会福祉への貢献をねらいとして、対人援助の実践を展開する者が備えなければならない福祉の心の構造を明らかにする目的で、福祉・看護学生への調査を2007年4月から5月にかけて行ったことがある。

調査対象となった福祉・看護の学生のプロフィールを紹介すると、集計対象とした回答者193名の内訳は、男性31人、女性162人で、平均年齢は19.4±1.0歳であった。学生種別による内訳では福祉学生が105人（男性27名、女性78名）、看護学生が88人（男性4名、女性84）であった。

##### 2) 福祉の心を構成する因子

因子分析など多変量解析に依拠した分析結果は既に公表済みの論文に詳しい<sup>9)</sup>。ここでは簡単な概要を紹介することとし、自由記述内容の分析結果については節を改めて後述することにした。

さて、因子分析の手順としては、予め作成しておいた65項目の福祉の心に関する当てはまり度を、総勢200名の福祉と看護の学生に回答してもらえよう協力を依頼し、うち分析可能な193名分のデータを用いて因子を抽出している。

暫定的ではあるが、統計解析による分析結果では、福祉の心に次の8つの因子が含まれていることが示唆された。

- ①他者への献身、②普遍的な理解、③人間尊重の社会連帯、④対話からの学び、⑤幼少期から育むもの、⑥多文化の共生、⑦エコロジカルな立場、⑧自己育成

#### 2. 自由記述分析結果

自由記述内容の分析検討について、論文として公表するのは今回が初めてである。質問の内容は「あなたは福祉の心とはどのようなものだと思いますか」であった。

分析手続きとしては、得られた回答から1行ずつ、あるいは意味のとれる内容をデータ項目として再構成し、類似内容を集約してカテゴリーの抽出を行った。なお、ここでは福祉も看護も同根の歴史、営みをもつという前提に立ち<sup>10)</sup>、福祉・看護の学生種別ごとに分析結果を示しておきたい。

#### 1) 福祉学生の福祉の心

福祉学生では74件の回答があり、83個のデータ項目が得られ、次の16カテゴリーを抽出した。

- ①思いやり (12), ②幸せ (9), ③尊重 (7), ④相手の視点 (7), ⑤自由 (6), ⑥自然 (6), ⑦行動 (6), ⑧愛 (5), ⑨全ての人 (5), ⑩支え合い (4), ⑪共生 (4), ⑫助け合い (3), ⑬優しさ (3), ⑭普遍性 (2), ⑮平和 (1), ⑯正義 (1)  
( ) 内はデータの個数である。

#### 2) 看護学生の福祉の心

看護学生では63件の回答があり、103個のデータ項目から、次の20カテゴリーを抽出した。

- ①思いやり (16), ②助け合い (12), ③支え合い (9), ④相手の視点 (6), ⑤尊重 (5), ⑥自発性 (5), ⑦行動 (5), ⑧共生 (5), ⑨協力 (4), ⑩自由 (4), ⑪自然 (4), ⑫よく生きること (4), ⑬身近さ (4), ⑭人間 (3), ⑮幸せ (3), ⑯普遍性 (3), ⑰理解 (3), ⑱すべての人 (3), ⑲天性 (3), ⑳平等 (2)  
( ) 内はデータの個数である。

### IV 福祉人材養成に必要な新しい福祉の心

京極高宣は、福祉の心は、いつの時代でも変わらない思いやりとか、人間の尊厳を大切にしていこうというようなことを確認することで終わってはならず、従来からの捉え方も踏まえつつ、今の時代での考え方に、発想の転換を含めて考え、世の中を見つめ、変革していくことの必要があることを説いていた<sup>11)</sup>。福祉の心を「今の時代での考え方」で捉えなおすとどのようになるであろうか。

問題の所在で示した投書にみられる「古い」福

祉の心は、同情からの“憐憫”“献身”“自己犠牲”といったニュアンスが非常に強かった。しかし、今回の先行業績の検討や調査結果から知り得た「新しい」福祉の心は「古い」福祉の心と重なり合う部分もあるかもしれないが、たとえば同じ“献身”であっても、同情からのそれではなく、共感からの“献身”ということができるのではないか。すなわち、「新しい」福祉の心は、狭隘で偏屈な「古い」福祉の心に比べて、より厚みと深みがあり、奥行きと広がりがあると考ええる。

福祉の心として辞典に明示されていた「豊かな人間性」、「社会連帯」、「福祉社会の創造」の3つのキーワード、因子分析で抽出された8つの構成因子、福祉と看護の学生に共通してみられた“思いやり”“助け合い”“支え合い”“相手の視点”“共生”“幸せ”“尊重”といったカテゴリーを総合して考えてみると、人間としてどうあるべきかを最終的には問うているようにも思われる。

最後に、今後においては、関係者は福祉の心を歪めた捉え方で用いることは控えるべきであることを強調しておきたい。しかし、そのためには社会福祉学あるいは地域福祉学という学問の中に「福祉の心」が正しく位置づけられなければならないと考える。それも「新しい」福祉の心をより明確にした上で位置づけられることが望ましい。福祉人材養成では、心の問題（福祉の心）を無視して考えることはできないからである<sup>12)</sup>。

#### 注・引用文献

- 1) 谷川和昭「福祉の心での支援」秋山博介・井上深幸・谷川和昭編『臨床に必要な社会福祉援助技術演習』弘文堂、2007年、p.188
- 2) 小島蓉子「福祉の心(2): 福祉の心を育てる家庭と社会」『OTジャーナル』23, 1989年、p.891.
- 3) 児島美都子『福祉のこころ・福祉の実践』(労働旬報社、1980年)、大橋謙策・林溪子『福祉のこころが輝く日』(東洋道企画出版社、1999年)、京極高宣『儒教に学ぶ福祉の心』(明徳出版社、2001年) 一番ヶ瀬康子『福祉のこころ』(旬報社、2002年)、阿部志郎『福祉の役わり・福祉のこころ』(聖学院大学出版会、2008年) など、多数の出版物があるが、いわゆる学術書ではない。

- 4) 阪野 貢「福祉の心」硯川眞旬監修『国民福祉辞典』金芳堂, 2003 年, p.355
- 5) 京極高宣『社会福祉学小辞典』ミネルヴァ書房, 2000 年, p.144.
- 6) 阿部志郎「福祉の心」京極高宣監修『現代福祉学レキシコン』雄山閣出版, 1993 年, p.128
- 7) 西村秀夫・日高登・井岡勉・阿部志郎「座談会 なぜ「福祉の心」が強調されるのか」『社会福祉研究』21, 鉄道弘済会, 1977 年, pp.64-75.
- 8) 谷川俊「相手の立場に立とうと努力することー“福祉のこころ”に何が社会的に要請されているのかー」『月刊福祉』61(4), 1978 年, pp.36-41.
- 9) 谷川和昭「福祉の心の構造化の試み」『メンタルヘルスの社会学』13, 日本精神保健社会学会, 2007 年, pp.50-57
- 10) 京極高宣『福祉文化の探究』中央法規出版, 2004 年, pp.91-92
- 11) 京極高宣「福祉の心」『少子高齢社会に挑む』中央法規出版, 1998 年, p.165
- 12) 筑前甚七「21 世紀に向けての社会福祉学の進展への一考察」『社会福祉学』33 (2), 1992 年, p.110.